

## 明治初期岡山県の産業構成

神 立 春 樹

1. 本稿の課題
2. 明治初期岡山県の物産構成
  - (1) 旧県別物産構成
  - (2) 部門別物産状況
3. 明治初期岡山県農業の地域的編成
  - (1) 岡山県の農産物構成
  - (2) 郡別農産物構成
  - (3) 明治初期岡山県農業の地域的編成

### 1. 本稿の課題

本稿は、これまでに筆者がすすめている「日本資本主義の成立・展開と地域編成」という課題追究のひとつの素材としてとりあげてきている岡山県についての検討の一環として、<sup>(1)</sup>「明治7年府県物産表」、<sup>(2)</sup>「明治10年全国農産表」にもとづいて、近代展開の始点となる時期の岡山県産業の部門的・地域的編成を把握しようとするものである。

- 
- (1) 筆者のこれまでのこのような観点からの岡山県近代産業史に関するものに、本学会雑誌の第12巻第1号、第2号、第4号、第13巻第1号、第2号、第4号、『研究報告書第16集』（岡山大学産業経営研究会刊行物第17集）、『岡山県の産業構造』（同上第15集）、『地方史研究』第173号、に掲載のものがある。
  - (2) 本稿では『明治前期産業発達史資料 第1集』（1959年 明治文献資料刊行会）所収の「明治七年府県物産表」、『日本農業発達史 第10巻』（1958年 中央公論社）所収の「明治十年全国農産表」によった。

この両資料の性格等についての説明は紙幅の関係上省略せざるを得ないが<sup>(3)</sup>、ここでは、「明治7年府県物産表」はわが国最初の、最も網羅的な完備された全国的な物産統計であること、「明治10年全国農産表」は農産物に限られるものではあるが、「物産表」が府県別であるのに対して郡別把握を行なった全国的な農業統計であること、そしてこの両統計はわが国幕藩制期の到達点、近代的发展の始点の状況を把握するうえでの最も重要な資料であること、以上のことのみを記しておこう。

## 2. 明治初期岡山県の物産構成

### (1) 旧県別物産構成

本節では、「明治7年府県物産表」によって明治初期の岡山県の物産構成を把握し、その特徴をみようというのであるが、この「物産表」の記載そのものはつぎのようになっている。この「物産表」はあらゆる生産部門の生産物の生産高（生産数量と生産価額）を各府県ごとに表示し、その全国合計を記したものである。その記載方式は、まず府県別に種目別の生産数量、生産価額を記載し、その総計を価額で表示した後、さらに種目別のものを種類別に集計しなおした「計表」を掲げている。各府県別のあとに全国合計があるが、この全国は種類別のみであって種目別の記載はない。全国合計における種類別は、米、陸稻、糯、麦類、小麦類、雑穀類からはじまり武器類、雑貨玩物類にいたる77種類に及んでいるが、これをいくつかの部門に分類して部門別構成を把握するということが行なわれてきている<sup>(4)</sup>。本稿では古島敏雄氏の分

(3) この両資料の解説としては、上掲(2)の「解題」(前者については飯塚、後者については和崎皓三)がある。なお後掲(4)古島敏雄著書における史料的位置づけを参照されたい。

(4) 山口和雄『明治前期経済の分析』(1956年 東京大学出版会)第1章、古島敏雄『資本制生産の発展と地主制』(1963年 お茶の水書房)第一章第一節、同『産業史Ⅲ』(1966年 山川出版社)第一篇第一章。

類方式（第1表註(2)参照）にしたがって「物産表」を加工し、岡山県の物産構成を示し、その特徴を検討していく。<sup>(5)</sup>

第1表はそのようにして作成された岡山県に属する当時の諸県の部門別物産額を表示したものである。これを基礎としてまず岡山県全体の特徴をみていこう。第2表はその構成比を示す。まず岡山県全体についてみていく。表中の岡山Ⅰは美作と備前、岡山Ⅱは美作、備前に備中と後の広島県に属する備後の一部を含むもので、いずれも後の岡山県域と一致しないが、これによって検討していく。

まず米麦雑穀であるが、岡山Ⅰは55.9%、岡山Ⅱは55.1%に達し、いずれも全国の49.6%を大きくうまわっている。全国が3.3%の蔬菜・果実は岡山Ⅰは1.7%、岡山Ⅱは1.6%にとどまりそれを大きく下まわっている。加工原料農産物は岡山Ⅰは6.3%、岡山Ⅱは8.9%で、後者は全国の8.3%をうまわる大きさとなっている。岡山Ⅰのそれは全国に及ばないが、岡山Ⅰの物産構成中、米麦雑穀、飲食物につぐ大きさである。家畜・野獣、林産物、水産物、肥料・飼料は、林産物において岡山Ⅱが全国を下まわっているほかは、いずれも全国をうまわっている。飲食物は全国は12%で大きなウェイトを占めるが、岡山Ⅰ、Ⅱともにそれをうまわっている。特に岡山Ⅱは15.4%に達している。農産加工品、林産加工品、雑貨手芸品、陶磁器、器具・船舶、その他加工品のいずれにおいても、岡山Ⅰ、岡山Ⅱはともに全国を下まわっていて、飲食物をのぞく他の工業生産物はいずれも全国よりそのウェイトは小さい。

(5) 拙稿『『明治二十一年岡山県農事調査書』』（『岡山大学経済学会雑誌』第12巻第1号 1980年7月）第3節「明治前期岡山県の産業資料」において、筆者は「物産表」にもとづいて明治初期岡山県の産業構成を概観した。それ以前のこの「物産表」にもとづく研究については同稿の註（9）、（11）、（13）を参照されたい。なお、森元辰昭『『明治七年府県物産表』の作成過程について』（『岡山県史研究』第2号 1981年）は、岡山県真庭郡川上村の物産表関係文書にもとづき、「物産表」の作成過程をあきらかにしたものである。

第1表 旧岡山諸県の部門別物産額

(明治7年)

	北 条 県	岡 山 県	小 田 県
米 麦 雑 穀	円 銭 厘 1,279,338.91.0	円 銭 厘 2,258,277.53.7	円 銭 厘 3,134,546.56.6
蔬 菜・果 物	49,687.65.6	57,874.66.8	89,614.43.0
加工原料農産物	229,121.78.1	170,810.81.1	675,988.38.9
家 畜・野 獣	289,177.00.1	2,710.04.7	112,880.20.0
林 産 物	121,552.36.4	85,098.74.5	82,826.26.5
水 産 物	2,861.18.7	142,513.59.0	104,646.52.5
肥 料・飼 料	131,384.70.1	22,077.69.7	7,443.47.0
飲 食 物	276,788.24.8	487,746.83.5	1,106,561.08.6
農 産 加 工 品	175,893.67.2	282,969.79.0	284,870.24.5
林 産 加 工 品	27,356.63.3	14,892.96.1	5,022.42.0
雑 貨 手 芸 品	29,247.83.8	51,062.65.0	8,850.00.0
陶 漆 器	16,630.77.3	11,372.09.7	6,128.00.0
器 具・船 舶	32,392.66.5	11,021.60.8	23,695.50.0
そ の 他 加 工 品	1,038.52.8	349.30.0	297.75.0
金 属・石 鋤	67,769.66.9	4,851.55.1	140,796.01.2
合 計	2,730,242.62.6	3,603,629.88.7	5,784,166.85.8

註 1) 「明治七年府県物産表」(『明治前期産業発達史資料 第1集』1959年 明治文献資料刊行会)より作成.

2) 部門分類は古島敏雄『産業史Ⅲ』(1966年 山川出版社)74ページ第10表によった.

第2表 岡山諸県の物産構成比

(明治7年)

	① 旧 県 別			② 岡 山 県		全 国
	北 条 県	岡 山 県	小 田 県	岡 山 Ⅰ	岡 山 Ⅱ	
米 麦 雑 穀	46.9 %	62.7 %	52.2 %	55.9 %	55.1 %	49.6 %
蔬菜・果実	1.8	1.6	1.6	1.7	1.6	3.3
加工原料 農 産 物	8.4	4.6	11.7	6.3	8.9	8.3
家畜・野獣	10.6	0.08	2.0	4.6	3.3	2.0
林 産 物	4.5	2.5	1.4	3.3	2.4	3.3
水 産 物	0.10	4.0	1.8	2.3	2.1	1.9
肥料・飼料	4.8	0.61	0.13	2.4	1.3	1.1
飲 食 物	10.1	13.5	19.1	12.1	15.4	12.0
農産加工品	6.4	7.9	4.9	7.2	6.2	11.9
林産加工品	1.0	0.41	0.09	0.67	0.39	1.3
雑貨手芸品	1.1	1.4	0.15	1.3	0.74	1.9
陶 磁 器	0.61	0.32	0.11	0.44	0.28	0.8
器具・船舶	1.2	0.31	0.41	0.69	0.06	1.3
そ の 他 加 工 品	0.04	0.01	0.00	0.03	0.02	0.2
金属・石鋳	2.5	0.13	1.8	1.1	1.8	1.1
合 計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
再 農林水産物	74.7	75.8	72.8	75.3	74.1	69.0
掲 工 産 物	25.3	24.2	27.2	24.7	25.9	31.0

註 1) 第1表より作成。ただし全国は古島敏雄前掲書74ページによる。

以上を農林水産物、工産物の2部門にとりまとめてみると（米麦雑穀から加工原料作物までを耕種農産物として、これに家畜・野獣から水産物までと肥料・飼料の2分の1を加えたものを農林水産物、肥料・飼料の2分の1と飲食物からその他加工品、金属・石鉱までの合計を工産物とする古島敏雄氏の分類にしたがう）、岡山Ⅰ、岡山Ⅱの農林水産物は75.3%、74.1%となつて、ともに全国の69.0%をうわまわり、工産物はそれぞれ24.7%、25.9%で、ともに全国の31%をかなり下まわっている。農林水産物が全国をかなりうわまわるが耕種農産物のみについてみると、全国が61.2%であるのに対して、岡山Ⅰは63.9%、岡山Ⅱは65.6%であつて、それほど著しい大きさではない。農林水産物のウェイトのたかさは、米麦雑穀の著しい大きさと、耕種農産物以外の農林水産物の全国をうわまわる大きさによるのである。岡山Ⅱはこれに加工原料農産物の大きさが加わる。

以上によって、岡山県は岡山Ⅰ、岡山Ⅱのいずれの場合も米麦雑穀を軸とし、それに家畜・野獣、水産物、これに岡山Ⅰは林産物、肥料・飼料、岡山Ⅱは加工原料農産物が全国をうわまわるウェイトであり、農林水産物のたかい、全体としては農業県的色彩をみせているのである。

すでに岡山Ⅰ、岡山Ⅱのあいだには一定税度の差異がみられたが、ここでこの岡山県を構成する諸地域ごとの検討を行なっていきたい。

まず、北条県であるが、ここは上述のごとき岡山Ⅰ、岡山Ⅱの特徴である米麦雑穀のウェイトの大きさにもかかわらず、それは46.9%にとどまり、全国の49.6%を下まわったものとなっている。岡山Ⅰでは全国を下まわっていた加工原料農産物はここでは8.4%で、わずかながら全国をうわまわっている。岡山Ⅰにおける米麦雑穀のウェイトの大きさと加工原料農産物のウェイトの小ささは、主として旧岡山県のそれによつていたのである。このような耕種農産物における特徴のほかに、家畜・野獣、林産物、肥料・飼料の大きさが注目されよう。すなわち、家畜・野獣は10.6%で全国の2.0%の5倍のウェイトにあり、肥料・飼料は4.8%で全国の1.1%の4倍以上である。また

林産物も4.5%で全国の3.3%を大きくうわまわっているのである。飲食物以下その他の加工品にいたる加工生産物はいずれも全国を下まわるが、それらのなかで、飲食物、農産加工が全国の12.0%、11.9%に及ばないとはいえ、それぞれ10.1%、6.4%を占めていること、林産加工品、器具・船舶が全国の1.3%、1.3%を下まわるとはいえ、それぞれ1.0%、1.2%であって全国にせまるものであることが注目されよう。このように北条県は、わずかではあるが加工原料農産物が全国をうわまわるにもかかわらず耕種農産物全体としては全国の61.2%を下まわる57.1%にとどまっているのは、米麦雑穀、そして蔬菜・果実が小さいことの結果である。この耕種農産物の小ささにもかかわらず農林水産物は74.7%というように、全国の69.0%を大きくうわまわっているのは、家畜・野獣の著しい大きさ、それに林産物、肥料・飼料の大きいことによるのである。米麦雑穀と蔬菜・果実、特に前者が相対的に小さく、そして家畜・野獣、林産物、肥料・飼料、それに加工原料農産物という多様な農林産物をもつところに著しい特徴があるといえる。工産物は25.3%にとどまり、全国に及ばないが、全国にせまる飲食物の大きさもさることながら、農産加工も無視し得ないものであり、またウェイトはわずか1.2%ながら全国にはほぼ匹敵する器具・造船の存在が注目されよう。

旧岡山県についていえば、米麦雑穀の圧倒的なウェイトの大きさと、対照的に蔬菜・果実、加工原料農産物がいずれも小さく、商品的農産物のウェイトの小さいことが注目されよう。水産物が全国よりはるかに大きいことのほか、飲食物が13.5%で全国の12.0%をうわまわっていること、農産加工品が全国をはるかに下まわっているとはいえ7.9%というかなりの大きさであることもまた注目されよう。ここ岡山県は米麦雑穀の大きさが著しいことにその特徴があり、このほかでは水産物が大きいだけであって農林水産物の著しい大きさはまさしく前者のそれによっているのである。工産物は24.2%となり北条県を下まわるのであり、全国にはるかに及ばない。ここには飲食物をのぞきみるべき工産物はない。この旧岡山県は総じて米麦雑穀という主穀生

産の地域であったということが出来る。

小田県は米麦雑穀は全国をうわまわる大きさとはいえ、注目すべきは加工原料農産物が11.7%に達し、全国の8.3%を大きくうわまわっていることである。農林水産物は72.8%で全国を大きくうわまわるが、これはこの加工原料農産物のウェイトの大きさを特徴とする耕種農産物の67.5%という大きさの中心であり、これ以外はわずか5.3%にすぎない。飲食物は19.1%で全国の12.0%を大きくうわまわっていることが注目されよう。その他の加工生産物は農産加工が4.9%であるが、全国の11.9%にはるかに及ばずその半分以上であり、その他のものもいずれも小さいために工産物全体としては27.2%にとどまっている。この小田県は主穀に加えて加工原料農産物、飲食物のウェイトの著しい大きさにその特徴があるといえるのである。

以上、岡山県各地の物産構成を示し、その特徴をみてきた。農林水産物のウェイトが大きく、加工工業品のそれが小さいということは各地に共通であって、先にみた岡山Ⅰ、岡山Ⅱの特徴を各地とも示すが、内部に立入るとやや異なっていた。北条県は耕種農産物は全国を下まわるが、それは米麦雑穀の小ささによるのである。そのなかの加工原料農産物が全国をうわまわるものとなっていて、これに家畜・野獣、肥料・飼料の大きさが加わり、農林水産物全体としては全国をうわまわるものとなっている。工産物のウェイトは3県のなかで最も小さく、この小ささが岡山県全体におけるそのいっそうの小ささをもたらしているともいえる。このように北条県の工産物は全体としては大きくないが、10%をうわまわる飲食物、6.4%に及ぶ農産加工品があるほか、林産加工品、雑貨手芸品、陶漆器、器具・船舶のいずれもが全国に近い比率を占めているのである。この北条県は多様な物産をもっているといえよう。これに対して旧岡山県、小田県は米麦雑穀のウェイトが大きく、これとともに飲食物のウェイトが大きいほかは、小田県の加工原料農産物をのぞいてきわだったものがない。小田県はこの加工原料農産物の大きいという特徴があるが、飲食物をのぞいては工産物は少なく、両県とも米麦雑穀という主



穀中心の農業県的色彩を濃厚に示しているといえるのである。

## (2) 部門別物産状況

岡山県の物産構成上の特徴を以上にみてきたが、その内容をより具体化するために部門別物産状況をみていく。

第3表はこの岡山県の耕種農産物のうちわけをみたものである。いずれも米麦雑穀のウェイトが全国のそれをうわまわるが、それは米麦によってである。米だけをみれば小田県は52.5%で全国の61.8%をかなり下まわるが、他方麦は24.4%で全国の10.8%を著しくうわまわり、これが大きな特徴である。北条県は麦が全国より小さい。蔬菜・果実はいずれも全国より小さい。北条県において比較的大きなウェイトを占めている加工原料農産物は製茶類8.7%、綿類2.7%、煙草類1.7%等が主なものであるが、うち製茶類、煙草類は全国をうわまわる大きさである。旧岡山県はこの加工原料農産物は6.9%にとどまり全国の半分以下である。綿類が3.2%、種子類2.2%がそのなかで大きいものであるが、綿類が全国と同じであることをのぞいて、他はいずれも全国よりかなり小さい。綿類をのぞくとめばしいものがないといえる。原料作物のウェイトのたかい小田県は、綿類7.2%、煙草類4.2%、染料2.3%、それに植物皮葉類1.8%が主なもので、これらはいずれも全国をうわまわる。特に綿類、煙草類は全国の2～3倍であり、そのウェイトは著しい。備中はやが国数有の棉作地帯であるが、それが反映されている。

第4表はこのほかの農林水産物として一括した部門のそれぞれの内わけを示す。北条県において全国の2.0%を大きくうわまわる10.6%に達した家畜・野獣についてみると、この北条県のこの部門の最大は牛で、ついで馬、家禽である。牛は牡・牝・犢・犊合計20,839頭、馬は839頭、家禽は鶏、家鴨、鶏卵、家鴨卵である。中国山地は和牛の産地であり、北条県の牛の大きさはこのことを反映するものである。小田県も牛12,567頭であるが同様の事情を示すのであろう。野獣・家畜は北条県は狐、狸、兎のほか、野豚、鹿、貉と

第3表 旧岡山諸県の耕種農産物構成

(明治7年)

	北 条 県		岡 山 県		小 田 県	
	価 額	構成比	価 額	構成比	価 額	構成比
米	1,083,312.64.6	69.5	1,913,773.05.0	77.0	2,046,930.95.1	52.5
麦	120,654.02.8	7.7	284,451.62.6	11.4	953,182.67.5	24.4
雑 穀	75,372.23.6	4.8	60,052.86.1	2.4	134,432.94.0	3.5
小 計	1,279,338.91.0	82.1	2,258,277.53.7	90.8	3,134,546.56.6	80.4
蔬 菜	44,064.66.3	2.8	56,338.49.0	2.3	85,618.03.8	2.2
果 実	5,622.99.3	0.36	1,536.17.8	0.06	3,996.39.2	0.10
小 計	49,687.65.6	3.2	57,874.66.8	2.3	89,614.43.0	2.3
種子類	13,524.07.8	0.87	54,906.54.6	2.2	57,653.14.6	1.5
製茶類	135,829.33.5	8.7	3,626.67.0	0.15	9,727.50.0	0.25
煙草類	25,870.86.1	1.7	19,775.18.0	0.80	162,906.58.0	4.2
染料類	4,340.44.6	0.28	7,064.92.1	0.28	88,458.36.0	2.3
綿 類	42,575.71.7	2.7	79,151.75.0	3.2	282,010.63.3	7.2
麻 類	1,883.69.5	0.12	—	0	2,422.30.0	0.06
蚕 卵 紙 類	30.68.6	0.00	1.20.0	0.00	877.10.0	0.02
まゆ類	1,259.95.3	0.08	225.14.7	0.01	678.00.0	0.02
真綿類	—	0	1.54.5	0.00	—	0
植 物 皮葉類	3,808.01.0	0.24	6,057.85.2	0.24	71,254.77.0	1.8
小 計	229,122.78.1	14.7	170,810.81.1	6.8	675,988.38.9	17.3
合 計	1,558,149.34.7	100.00	2,486,963.01.6	100.00	3,900,149.38.5	100.00

註 1) 第1表と同一資料より作成。全国は古島敏雄前掲書91ページ第12表によった。

第4表 旧岡山諸県のその他の農林水産物

(明治7年)

		北 条 県	岡 山 県	小 田 県
家畜・野獣	牛	円 銭 厘 272,200.10.0	円 銭 厘 356.00.0	円 銭 厘 100,536.00.0
	馬	8,647.05.0	96.00.0	5,855.00.0
	豚	5.00.0	—	—
	家 禽	5,054.71.3	1,631.34.7	5,868.60.0
	野 獣 禽	2,061.54.8	508.45.0	396.60.0
	皮 革	1,208.59.0	118.25.0	224.00.0
林産物	木 材	12,534.66.7	1,839.62.5	2,833.30.0
	薪	89,447.77.7	72,578.84.5	52,850.22.0
	炭	16,994.98.0	7,561.14.0	25,808.06.5
	竹	1,800.28.1	947.22.5	260.10.0
	藺 茸	399.51.2	371.91.0	943.54.0
	薬 種	375.14.7	1,800.00.0	75.40.0
肥料・飼料	油 滓	1,175.14.0	14,028.10.0	3,048.80.0
	綿 実 滓	—	2,655.80.0	—
	酒 滓	—	2,388.55.0	2,103.00.0
	鰯 煎 干	—	3,000.00.0	—
	鳥 尿	252.77.9	—	—
	獣 骨	104.45.0	5.24.7	—
	干 草	85,452.23.7	—	2,291.67.0
	藁	44,394.87.5	—	—
水産物	豆 葉	5.22.0	—	—
	海 藻	—	103.43.0	100.00.0
	魚	2,852.89.1	120,965.70.0	104,543.52.5
	甲 貝	8.29.6	21,360.89.0	3.00.0

註 1) 第1表と同一資料より作成。

多様である。野禽は鴨，小禽である。同じく北条県の皮革は，牛皮，馬皮，猪皮，鹿皮，狐皮である。この北条県は多数の牛生産・販売とともに各種の野獣等があり，また家畜・野獣の皮革加工がみられるのである。

北条県において産額で大きく全国をうわまわるウェイトをみせた林産物の内わけをみると，薪を最大とし，炭，木材となるが，北条県についてみると，薪は20,090,636貫，炭は159,801俵（7貫目俵）であり，木材は柱丸太，角物，板，桁，貫梁，垂木で，木質は栗，松，杉，桐，樺，桧，榎等である。全体で40,675本，26,959.5間，625,110枚である。多様な林産物のあることが示されている。

同じく北条県において大きなウェイトを占めた肥料・飼料であるが，北条県では98.8%が飼料で，先にみたここでの畜産の大きさと結びついている。干草が最大で，これに藁が加わる。旧岡山県は肥料のみで菜子油をはじめとする油滓が63.5%を占め，これに綿実滓，酒粕，鰯粕等が加わり，各種肥料生産がみられる。小田県は乾草，油滓，酒滓である。

岡山県において全国のウェイトを大きくうわまわる水産物はその中心は魚類で，鱈をはじめとする各種魚類が捕獲されている。海に面していない北条県の場合は淡水魚である。

つぎに工産物についてみる（以下第5表）。小田県において全国の12.0%をはるかにうわまわる19.1%を占め，また旧岡山県も全国をうわまわる飲食物は，この3県合計で食物58.9%，醸造物40.4%，穀質・澱粉0.7%という構成となっているが，それは塩，酒類，醤油を主要なものとする。特に全体の55.1%を占める塩は小田県で多く生産され，これが小田県の飲食物のウェイトを押しあげている。漁類は旧岡山県が最も多いが他の2県にも同時に多くあり，また醤油も同様である。醸造は各地に展開していたことを示すものであろう。

農産加工品のうちわけをみると，3県合計で最大は織物で，ついで油類，氈席，木綿糸，生糸，紙等々となる。この最大の織物は旧岡山県が137,601円

41銭で半分以上がここにあるが、しかし北条県も 83,143 円 30 銭とその 6 割ほどの大きさである。また木綿糸は 34,421 円 84 銭余で、旧岡山県の 19,638 円 98 銭をはるかにうわまる。第 3 表でみたように北条県には綿類の生産はなく、したがってこの木綿糸の原料は圏外から多く移入されていたとみるべきであろう。著名な織業地児島をかかえる旧岡山県の 6 割にも達し、備中・備後にわたっての織業地を有する小田県をもうわまわるこの北条県の織物の大きさは、移入原料にもとづく木綿糸の備前をうわまわる大きさとともに注目に値しよう。小田県には 113,733 円 22 銭余の氈席があるが、その中心は畳表である。備後表の産地であることが反映されているであろう。菜子油をはじめとする各種油類が旧岡山県をはじめとして各地にある。なお生糸は小田県においてのみやや多いが、それでも大きなウェイトとはいえず、北条県がまだ小さいこととあいまって、製糸業は未展開であるといえよう。

第 5 表には林産加工品、陶漆器、雑貨手芸品、その他加工品のうちわけも示されている。これら 4 部門の各県におけるウェイトは北条県 2.7%、岡山県 2.2%、小田県 0.65% であって、北条県が最も大きい。漆器は北条県は 5,408 円 5 銭が椀、煙草盆で、これをうわまわる 5,541 円 90 銭は箆笥、鏡台、膳等の家具であり、ここでの部門分類では林産加工品に含ませた方がよいであろう。これに加えた林産加工品、あるいは木製品という方がよいかもしれないが、これら 3 県のなかでは北条県はこれが大きい。これに裁縫品（すべて足袋）、傘を中心とする雑貨玩具、簪を中心とする化粧具、椀、陶器等々と多様である。原料生産を背景とした都市手工業的なものが少くない。多分に津山等におけるその存在を示すものといえよう。岡山県は足袋である裁縫品、徳利等を主とする陶器、木版、木盤等の文房具等が主なものであるが、裁縫品は児島地方、陶器は備前地方に産地があり、岡山城下での都市手工業的生産物はむしろ大きくないように思われる。小田県は足袋をなかみとする裁縫品、同じくすべて箆笥である漆器が小田県としては大きい、その額は小さく、その他のものも小さいというよりはむしろ生産がみられないといえる。

第5表 旧岡山諸県の工産物

(明治7年)

			北 条 県	岡 山 県	小 田 県
食 料 品	穀 質 澱 粉	麵 粉	5,523.86.6	3,780.08.2	—
		蕎 麦 粉	1,664.20.0	581.65.6	—
		そ の 他 計	7,803.61.1	4,362.33.8	—
	醸 造 物	酒 類	153,776.48.1	206,141.24.5	181,791.09.2
		味 淋 酒	785.27.5	—	—
		酢	2,210.10.0	7,133.61.0	6,326.64.0
	食 料 品	味 噌	49,665.16.1	9,911.61.5	1,425.78.0
		醬 油	29,447.44.0	73,631.24.0	30,754.43.4
		糀	949.53.0	294.10.0	—
	食 料 品	そ の 他 計	236,833.98.7	299,112.59.0	220,297.94.6
		塩	—	151,608.60.0	879,815.64.0
		砂糖	—	22,563.95.7	985.00.0
	農 産 加 工 品	素 麵	1,165.00.0	18.40.0	4,873.00.0
		塩 漬 蘿 蔔	14,892.96.0	6,008.05.0	—
		そ の 他 計	32,150.65.0	184,271.90.7	886,263.14.0
農 産 加 工 品	油	類	32,070.83.0	87,359.57.0	38,387.28.0
		蠟	1,322.48.0	9,678.08.0	40.00.0
		生 糸	1,682.12.4	413.50.0	50,390.00.0
	織 物	木 綿 糸	34,421.83.6	19,638.98.0	—
		織 物	83,143.30.0	137,601.41.0	51,304.75.0
		氈 席	8,502.49.0	7,828.86.5	113,733.22.5
	紙	紙	6,425.20.0	8,588.38.5	15,381.30.0
		網	193.85.0	11,861.45.0	12,190.00.0
		縄	8,131.56.2	—	3,443.69.0
林 産 加 工 品	戸 障 子	戸 障 子	2,513.03.0	1,529.50.0	—
		指 物	1,848.05.0	1,097.75.0	—
		木 地 挽 物	511.25.0	—	—
	藤 竹 葎 器	藤 竹 葎 器	3,836.01.5	5,296.80.0	2,823.30.0
		桶 樽	2,943.11.0	1,646.28.6	—
		曲 物	1,091.76.0	—	—
	履 物	履 物	14,613.41.8	5,322.62.5	2,199.12.0
雑 貨 手 芸 品	裁 縫 品	裁 縫 品	13,714.20.0	36,855.07.0	7,350.00.0
		雜 貨 玩 物	7,663.63.8	1,300.60.0	1,500.00.0
		化 粧 品	7,120.40.0	5,102.68.0	—
	文 房 具	文 房 具	749.60.0	7,804.30.0	—

		北 条 県	岡 山 県	小 田 県		
陶漆器	漆 器	10,950.40.0	28.62.0	5,000.00.0		
	陶 器	5,680.37.3	11,343.45.7	1,128.00.0		
その他加工品	製 薬	116.47.8	150.00.0	97.50.0		
	絵 具	286.05.0	—	—		
	膠 漆	96.00.0	199.30.0	200.25.0		
	図 書 製 本	540.00.0	—	—		
器 具 ・ 船 船	金属細工	釘	5,062.35.5	—	984.00.0	
		たんす金具	485.00.0	—	—	
		そ の 他 計	5,577.35.5	288.00.0	984.00.0	
		鉄鋳物各種	10,060.50.0	—	11,700.00.0	
	諸 器 械	鋸	5,423.57.0	5,436.81.0	385.50.0	
		鎌	5,327.31.0	3,615.91.8	112.50.0	
		稲 刈	1,098.00.0	—	—	
		斧	793.45.0	—	—	
		包 丁	644.59.0	—	—	
		鉄 鋸	—	—	5,907.50.0	
		櫓	—	—	3,512.00.0	
		そ の 他 計	26,367.31.0	10,733.60.8	22,225.50.0	
		船 船	448.00.0	—	486.00.0	
		金属 ・ 石 鉦 土	金 属	銅	3,243.48.9	—
	鉄			47,026.83.0	—	44,478.72.0
	生 鉄			12,84.000.0	—	54,869.47.2
	鉄 沙			3,730.05.0	—	1,495.27.0
	そ の 他 計			66,840.36.9	—	103,128.26.0
玉 石	緑 ば ん		650.64.0	214.51.3	37,384.00.0	
	石 灰		171.60.0	753.83.8	125.00.0	
	石 材		—	3,883.20.0	—	
	そ の 他 計		929.30.0	4,851.55.1	37,667.75.0	

註 1) 第1表と同一資料より作成。

総じて北条県が原料生産を背景とした都市手工業的製品を多くもっていることを示しているといえるであろう。

器具・船舶に分類される生産物のウェイトはいずれの県でも全国のそれより小さいことをみてきたが、第5表にはそのうちわけをも示す。諸器械が最も多く、ついで金属細工となる。そのウェイトが全国平均にせまる北条県が生産額が最大で、諸器械は鉄鋳物各種（多分にこれは鍋釜類であろう）の消費財と鋤、鎌、稲扱、斧等の農林具の生産がみられる。それに金属細工では釘の生産が多く、それに箆司金具がつづく。旧岡山県は鋤、鎌、それに人力車金具が主なものである。小田県は鍋釜と鋤、鎌のほかに鉄錨、櫓という船具がかなりみられる。ここの金属細工はすべて釘である。北条県には16艘の川船（30石積）、小田県には18艘の漁船が製造されている。

北条県がかなり大きく、そして小田県も全国のウェイトをうわまわる金属石鋳のうちわけも第5表に示されている。小田県が最も多いが金属の97.8%が鉄で、この鉄が大部分を占めていることは北条県も同様である。これに銅が加わる。中国山地の鉄（たたら製鉄）を反映している。玉石鋳土は旧岡山県が石材が大きいほかは、緑ばん（硫化第一鉄）がその主なものとなっている。

### 3. 明治初期岡山県農業の地域的編成

#### (1) 岡山県の農産物構成

「明治7年府県物産表」にもとづく前節での明治初期の岡山県の物産構成の検討によって、旧県別にみて物産構成に大きな差異のあることがあきらかとなったが、ここではこの地域的編成を「明治10年全国農産表」によってさらに検討していく。<sup>(6)</sup>すでに述べたようにこの「農産表」は郡別に記載されて

---

(6) 本資料を使用した研究については本註(2)にあげた和崎皓三「解起」を参照されたい。



いるのであり、旧国別の「物産表」よりさらに小地域ごとの検討ができるのである。ただしこれは若干の加工品、水産物を含むほかは農産物についてのものであり、したがって農業的地域編成の検討ということになる。

この「農産表」は、まず普通農産物について反別、数量、価額を旧国別に記載する全国普通農産表と、特有農産物について数量と価額を同じく旧国別に記載する特有農産合計表と郡別に普通農産物については播種地反別、数量、単価を、特有農産物については数量と単価を記載するいわば郡別農産表とからなっているが、第6表は全国普通農産表と特有農産合計表にもとづいて作成したものである。これによると3地方ともに米麦雑穀のウェイトが、そしてそれに諸薯、野菜果実を加えた普通農産物のウェイトが全国のそれをうわまわり、特有農産物のそれはいずれの地方とも下まわっていること、そのなかで備前が前者のウェイトが最も大きく、後者のそれが最も小さいこと、これらの点において第3表におけると同様の状況を呈しているのである。もっとも備中が備後の一部を含んだ小田県と比べて米のウェイトが大きく、また麦のそれが小さいということや、美作が麦のウェイトが大きいなどの明治7年の「物産表」との相違もあるが、しかしこの普通農産物と特有農産物の構成、普通農産物の内部構成はほぼ同様であるといえる。そしてやや著しい相違は特有農産物の内部構成にある。明治7年の「物産表」では、岡山Ⅱをとると、綿類が5.1%で最大で、ついで煙草類2.6%、製茶類1.9%、種子類1.6%等々となるが、ここでは岡山県は実綿6.8%が最大で、ついで菜種4.8%、葉煙草0.88%、藍葉0.62%となり、製茶は蘭の0.44%について0.28%にとどまるというような相違がみられるのである。地方別では小田県からそこに含まれていた備後をのぞいた備中と美作が特有農産物のウェイトが同じとなっているということがみられるが、個々の作物については、実綿のウェイトの最大は備中で、ついで備前、美作となること、そのウェイトは小さくなっている製茶ではあるが、そのウェイトが最も大きいのは美作であることなどはわかりがなく、他方、菜種が美作の最大のウェイトとなっていること、

第6表 岡山県地方別農産物構成

(明治10年)

	美 作	備 前	備 中	全 県	全 国
米	68.0 %	69.8 %	58.6 %	65.3 %	56.2 %
麦	11.1	12.3	17.0	13.8	11.2
雑 穀	5.3	1.9	4.7	3.7	6.6
蕎 麦	0.47	3.1	4.4	3.0	6.6
野 菜・果 実	—	—	—	—	0.19
小 計	84.8	87.3	84.8	85.8	80.7
菜 種	8.7	4.8	2.5	4.8	3.2
製 茶	0.77	0.11	0.20	0.28	1.4
紅 茶	—	—	—	—	0.01
葉 烟 草	1.7	0.11	1.2	0.88	0.58
藍 葉	0.36	0.38	1.0	0.62	1.9
紅 花	—	—	—	—	0.04
実 綿	2.6	6.6	8.9	6.6	3.4
麻	0.18	—	0.03	0.05	2.8
ま ゆ	0.48	0.05	0.04	0.13	4.2
楮 皮	0.36	0.01	0.28	0.19	0.62
雁 皮	—	—	—	—	0.00
三 桎	—	—	—	—	0.03
甘 蔗	0.00	0.49	0.00	0.20	0.44
蘭	0.00	0.19	0.95	0.44	0.26
阿 片	—	—	—	—	0.00
漆 液	0.00	—	0.01	0.01	0.03
生 蠟	—	—	—	—	0.30
小 計	15.2	12.7	15.2	14.2	19.3
合 計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

註 1) 「明治10年全国農産表」(『日本農業発達史 第10巻』1958年 中央公論社)より作成。各種目の生産数量と単価により算出した生産価額にもとづく構成比である。以下各表とも同様である。

2) 原史料では野菜・果実を特有農産物としているが、この表では「物産表」との対比をも考えて普通農産物とした。

葉煙草も備中ではなくこの美作で最大のウェイトとなっていることなどの相違がみられる。このような特有農産物の種類別構成等において異なるとはいえ、明治10年は明治7年とほぼ同様の農産物構成をとっていたといえるであろう。

## (2) 郡別農産物構成

ところでこの「農産表」のメリットは郡別把握が行なわれていることである。第7表は郡別農産表から作成した各郡農産物構成表である。各種目別の生産数量と単価から各生産額を算出し、それをもとに構成比を算出したものである（その集計により地方別ならびに全県をも算出したが、この数値は第6表の全国普通農産表と特有農産合計表とから算出したものとやや異なっている）。これによると、美作、備前、備中として一括されているそれぞれの地方がそれぞれに異なった地域（郡）からなっていることが示されているであろう。

これまで検討してきたように備前は普通農産物のウェイトが大きく、特有農産物のそれが小さいことをもってその特徴としていたのであるが、いまこれを郡別にみるならば上道郡が前者は全国平均を下まわり、後者はそれを上まわるという備前全体とは異なる構成を示している。さらにやや立入って最も基本的である米についてみると、備前は全体としては全県をうわまわっているが児島郡と津高郡がそれを下まわっている。そのうちの津高郡は麦のウェイトの大きいことにより、児島郡は甘藷の著しい大きさにより、ともに普通農作物は全県をうわまわるものとなっている。全体として特有農産物のウェイトの小さいなかで、実綿と菜種が比較的大きい。児島郡、上道郡、磐梨郡は実綿が、邑久郡、上道郡、津高郡は菜種が全県をうわまわるウェイトである。

この備前と対照的に、普通農産物のウェイトが全県を下まわり、特有農産物のそれが全県をうわまわるのは備中であるが、これも郡別状況はかなり多

第7表 岡山県郡別農産物価額構成

	真 島	大 庭	西北条	西々条	東南条	東北条	勝 北	吉 野	勝 南	英 田	久 南	久 北	美作計	御 野	津 高	赤 坂	磐 梨
米	63.3	63.1	78.5	82.4	76.4	78.7	82.8	64.6	67.5	59.7	34.8	53.0	63.8	79.8	54.9	66.0	68.9
糯 米	5.5	6.1	5.4	4.5	7.4	8.3	4.2	5.1	4.8	5.7	2.1	4.9	4.8	3.9	5.1	5.3	4.4
小計	68.9	69.2	83.9	86.9	83.9	87.0	87.0	69.7	72.3	65.4	36.9	58.0	68.6	83.7	60.0	71.9	73.4
大 麦	9.9	0.5	3.8	3.5	6.4	4.2	6.8	6.4	4.9	5.4	3.1	7.9	5.6	0.37	11.4	1.4	0.50
小 麦	1.5	1.2	0.91	1.5	2.7	0.79	1.3	1.0	0.21	1.6	9.9	1.1	2.5	0.98	1.7	1.5	1.4
裸 麦	1.3	3.6	2.3	1.5	1.0	0.45	0.5	3.4	5.6	7.9	4.4	2.9	2.9	4.1	9.2	11.6	10.5
小計	12.7	5.2	7.0	6.5	10.2	5.5	8.3	10.9	10.7	14.8	17.4	11.9	11.0	5.5	22.4	14.5	12.4
粟	0.56	0.57	0.32	0.38	0.55	0.08	0.17	0.36	6.8	0.74	1.3	1.1	0.57	0.07	0.57	0.53	0.22
黍	0.18	0.07	0.02	0.04		0.02	0.01	0.03	0.07	0.09	0.10	0.12	0.08	0.07	0.10	0.20	0.06
稗	0.24	0.32	0.01	0.15	0.02	0.00	0.07	0.18	0.11	0.00	0.08	0.03	0.11	0.00	0.12	0.13	0.06
大 豆	7.7	4.2	2.4	1.8	1.6	2.3	0.79	5.0	2.6	5.27	1.8	9.9	4.1	0.25	2.3	2.2	1.7
蕎 麦	0.50	0.40	0.30	0.31	1.2	0.18	0.18	0.37	0.51	0.88	0.40	0.47	0.40	0.03	0.51	0.39	0.14
蜀 黍	0.01	0.12	0.01	0.00			0.00	0.01	0.00	0.01	0.02	0.05	0.01		0.16	0.04	0.00
玉蜀黍	0.02	0.01	0.00	0.00			0.00	0.01	0.00	0.00		0.01	0.04	0.14	0.00	0.01	
小計	9.2	5.6	3.0	2.7	2.5	2.6	1.2	5.9	3.9	7.0	3.7	11.1	5.3	3.6	3.8	3.5	2.2
甘 薯	0.19	0.43	0.00	0.04		0.23	0.13	0.31	2.6	0.34	0.07	0.40	0.39	0.02	0.75	0.39	0.01
馬鈴薯	0.15	0.01	0.00	0.02		0.04	0.02	0.32	0.02	0.22	0.01	0.05	0.07		0.01	0.14	0.00
小計	0.34	0.44	0.00	0.06		0.28	0.15	0.63	2.6	0.56	0.09	0.45	0.46	0.02	0.76	0.53	0.01
合 計	91.1	80.5	93.9	96.1	96.5	95.3	96.7	87.2	89.6	87.8	58.1	81.4	85.3	89.5	86.9	90.5	88.0
実 綿	0.00	2.4	1.4	1.8	1.8	0.79	1.2	6.1	5.7	2.3	1.6	2.5	2.1	4.0	4.5	5.1	7.5
麻				0.10		1.4	0.19	1.1		0.02		0.00	0.18				
ま ゆ	0.39	0.35	1.5	0.13	0.12		0.66	1.2	1.2	0.63	0.05	0.30	0.48		0.19	0.16	0.02
藍 葉	0.67	0.28	0.28	0.11		0.07	0.21	1.8	0.33	0.23	0.03	0.40	0.36	0.12	0.76	0.32	0.04
製 茶	0.21	0.50	0.08	0.35			0.09	0.58	0.49	8.0	0.05	0.06	0.77		0.48	0.27	
甘 蔗												0.00	0.00	0.22	0.20	0.46	0.24
桔 皮	0.76	0.51	0.48	0.07		1.00	0.29	0.56	0.56	0.18	0.01	0.08	0.36		0.09		
漆 液	0.00											0.00	0.00				
葉烟草	5.0	12.1	0.01		0.01	0.05	0.08	0.77	0.17	0.28	1.13	0.25	1.7		0.59	0.45	0.01
菜 種	1.8	3.2	2.3	1.3	1.6	1.3	0.58	0.59	1.9	0.58	39.0	15.0	8.7	4.4	4.8	2.7	4.2
蕎 麦						0.04							0.00	0.87	0.80		
合 計	8.9	19.5	6.0	3.9	3.5	4.7	3.3	12.8	10.4	12.2	41.9	18.6	14.7	10.5	13.1	9.5	12.0
総 計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

註 1) 第6表と同一資料より作成。

2) 単位はパーセント。

明治初期岡山県の産業構成 799

(明治10年)

和 気	邑 久	上 道	児 島	備前計	都 宇	窪 屋	浅 口	小 田	後 月	下 道	賀 陽	上 房	川 上	哲 多	阿 賀	備中計	全 県
65.0	63.3	53.8	49.1	60.2	77.9	60.9	41.9	44.0	30.6	53.5	66.1	50.7	37.3	70.8	60.4	55.5	59.2
5.1	3.6	24.3	3.9	9.6	4.6	3.9	0.12	3.5	9.3	6.2	4.3	6.7	3.9	5.4	4.6	4.3	6.6
70.1	66.9	78.1	53.0	69.8	82.5	64.8	42.0	47.5	39.9	59.7	70.4	57.4	41.2	76.1	65.0	59.7	65.8
0.38	0.91	0.60	0.19	1.8	0.04	0.00	0.18	4.1	10.4	0.76	1.4	19.4	17.7	9.6	13.1	5.0	3.8
2.0	1.9	1.2	2.5	1.6	0.79	1.8	6.2	5.3	2.8	2.8	1.7	1.9	2.2	1.3	2.9	2.8	2.3
14.2	13.2	5.5	14.3	9.7	6.00	9.8	21.4	19.2	8.8	13.9	8.3	1.3	0.60	0.14	0.10	9.6	8.2
16.4	15.9	7.3	17.0	13.2	6.8	11.6	27.7	28.5	22.0	17.5	11.4	22.6	20.5	11.0	16.1	17.4	14.3
0.52	0.27	0.07	0.55	0.31	0.03	0.11	0.86	1.2	16.6	1.0	0.37	1.1	2.4	1.0	1.4	0.87	0.57
0.03	0.03	0.00	0.16	0.06		0.02	0.14	0.36	0.31	0.39	0.19	0.26	1.5	0.03	0.46	0.30	0.15
0.01				0.03			0.00	0.30	0.18	0.08	0.11	0.10	0.51	0.00	0.05	0.12	0.08
2.3	0.90	0.25	2.3	1.3	0.46	0.79	2.1	2.0	2.6	1.6	0.97	3.4	4.3	6.6	4.9	2.2	2.2
0.35	0.16	0.05	0.28	0.21	0.09	0.14	0.40	1.5	2.2	0.98	0.45	1.7	2.6	0.63	0.78	0.87	0.49
0.02	0.00	0.00	0.06	0.03	0.01	0.01	0.18	0.48	0.07	0.17	0.12	0.25	0.81	0.24	0.16	0.20	0.09
	0.09		0.00	0.02				0.08	0.00		0.16	0.00	4.2		0.03	0.37	0.14
3.3	1.5	0.37	3.3	1.9	0.59	1.1	3.7	5.9	7.1	4.3	2.4	6.9	16.3	8.5	7.8	4.9	3.7
1.0	1.8	0.01	16.0	3.0	0.28	0.28	0.02	4.5	10.8	2.9	0.57	0.27	3.0	0.28	0.15	1.7	2.0
0.00		0.00	0.43	0.08				0.03	1.5	0.12	0.05	0.11	1.1	0.08	0.05	0.21	0.13
1.0	1.8	0.01	16.4	3.1	0.28	0.28	0.02	4.5	12.3	3.0	0.62	0.38	4.1	0.36	0.20	1.9	2.1
90.7	86.1	85.7	89.7	88.0	90.1	77.8	73.5	86.5	81.4	84.5	87.2	87.3	82.1	96.0	89.0	84.1	86.0
3.8	5.8	8.6	8.8	6.6	3.1	15.5	24.4	7.1	9.7	9.6	7.0	4.8	2.6	0.02	1.9	9.1	6.6
					0.14							0.01	0.03	0.07	0.20	0.03	0.05
0.42			0.00	0.05	0.23			0.04	0.05	0.01	0.03				0.03	0.04	0.14
0.64	0.32	0.48	0.18	0.38		0.12	0.51	2.0	3.7	2.2	1.0	1.9	1.1	0.04	0.55	1.0	0.62
0.40	0.01			0.11					0.00	0.24	0.04	1.8	0.14	0.17	1.0	0.21	0.28
	1.2	0.03	1.3	0.49		0.02					0.00					0.00	0.21
0.01				0.01								0.09	4.9	3.2	1.4	0.64	0.32
												0.04	0.13			0.01	0.00
0.12	0.01		0.00	0.11				0.09	1.6	0.08	0.12	3.9	7.6	0.20	5.0	1.3	0.89
3.9	6.4	5.1	0.03	4.1	2.7	2.7	1.6	4.1	3.2	3.3	4.6	0.10	1.4	0.28	0.87	2.6	4.5
				0.19	3.7	3.8	0.00	0.22	0.33							1.0	0.44
9.3	13.8	14.3	10.3	12.0	9.9	22.5	26.5	13.5	18.6	15.5	12.8	12.7	17.9	4.0	11.0	15.9	14.0
100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

様である。普通農産物のウェイトが小さく、特有農産物のそれが大きいのは、窪屋、浅口、後月、下道、川上、の5郡で、都宇、小田、加陽、上房、哲多、阿賀の6郡はその逆であり、むしろこの方が郡数としては多い。この6郡のうち米が全県をうわまわっているのは都宇、賀陽、哲多の3郡である。他はそれが全県を下まわっているのに普通農産物全体としては全県をうわまわっているのは、小田郡は麦のウェイトの著しい大きさ、および雑穀、甘藷の大きさ、上房郡は同じく麦と雑穀、阿賀郡も麦と雑穀のウェイトの大きさによるのである。これら諸郡は特有農産物は全県を下まわすが、それでも全県にせまるものもあり、この特有農産物をも加えた畑作物および水田裏作の展開がみられるのである。特有農産物のウェイトの大きい5郡のうちの窪屋、浅口、後月、下道の4郡は実綿、川上郡は葉煙草および楮皮を重要な特有農産物としているが、なおいずれも米のウェイトが全県のそれより小さいなかで特にその小さい浅口、後月、川上の3郡は麦、後月、川上の両郡は加えて雑穀が全県をうわまわっていて、畑作および水田裏作の展開がみられたのである。

美作は全体としては備中と同様に普通農産物のウェイトは全県のそれを下まわり、特有農産物は全県をうわまわすが、郡別にみるとその傾向をもつのは大庭、久米南条、久米北条の3郡にすぎず、他の9郡はそうではなく、両久米、東南条、東北条、勝北、それに両北条などが特有農産物のウェイトが最も小さい諸郡となっているのである。このように多くの郡において特有農産物のウェイトがむしろかなり小さくなっているにもかかわらず美作が全体としてそれが大きくなっているのは、大庭、久米南条、久米北条3郡の特有農産物のウェイトの大きさによるのである。久米南条、久米北条両郡は菜種、大庭郡は葉煙草である。久米南条郡についてはこの異常な大きさの菜種の収量は誤植であろうという推測もある<sup>(7)</sup>。そうであるとする<sup>(7)</sup>と特有農産物のウェ

(7) 定本正芳「明治前期の岡山県農業」(『人文地理』第15巻第2号 1963年) 207ページ。

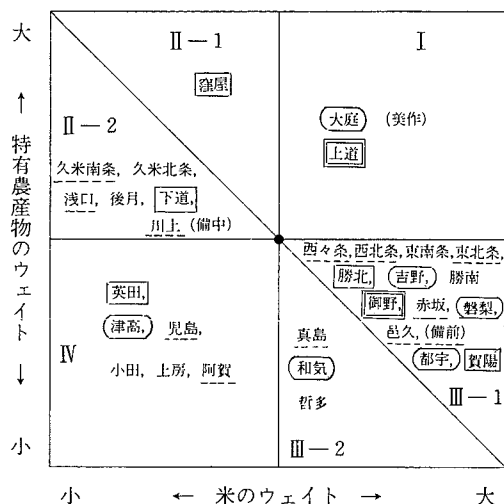
イトは美作全体としても小さくなることも考えられ、備前と同様の傾向となるかもしれない。しかしここに出ている数字を割引しても久米南条から久米北条の両郡にかけて、そして備前の津高郡にわたって葉種がかなり生産されていたといえよう。大庭郡の葉煙草のウェイトの大きさも注目されよう。その他の諸郡はいずれも特有農産物のウェイトは小さいが、それらのなかで吉野、勝南の両郡に全県のウェイトに近い実綿があるほか、英田郡の製茶のウェイトの大きさが目を引くであろう。「明治7年物産表」において北条県（美作）の製茶のウェイトの大きいことはすでに見てきたが、英田郡がその中心地であったろう。このような大きなウェイトの普通農産物についてみると、久米南条、久米北条の両郡と英田郡のほかは米のウェイトがたかいこと、この久米南条と英田の両郡が麦のウェイトややがたかいことをのぞいて、美作諸郡の多くは麦のウェイトの小さいこと、大豆を中心とした雑穀のウェイトの大きい郡が少くないこと、などをその構成上の特徴として指摘し得るであろう。

### (3) 明治初期岡山県農業の地域的編成

以上、各郡ごとの構成をみてきたが、ここでこれら諸郡を農産物構成におけるいくつかの指標にもとづいてグルーピングし、地域類型化を行ないたい。いくつかの指標とは、農業生産の基軸である米、商品生産の展開の度合を示す特有農産物、それに麦、雑穀等のその他農産物である。その結果を図示したものが第1図である。Ⅰは米と特有農産物のウェイトがともにたかい諸郡、Ⅱは米のウェイトは小さいが特有農産物のそれは大きい諸郡、Ⅲは米のウェイトは大きいが特有農産物のそれが小さい諸郡、Ⅳはそれらがともに小さい諸郡である。このⅣは必然的にその他農産物のウェイトが大きい、ⅡおよびⅢにもこのその他農産物の大きいものがあり、それはⅡ—2、Ⅲ—2であり、その他農産物が小さいものはⅡ—1、Ⅲ—1である。

Ⅰは基軸部門と商品作物がともにウェイトが大きい、構成上からはすぐれ

第1図



註

1) 第7表より作成.

2) 横軸は米のウェイトで全県平均 (中央線) より右はそれが大きいもの, 左は小さいもの.

縦軸は特有農産物のウェイトで全県平均 (中央線) より上はそれが大きいもの, 下は小さいもの.

斜線はその他農産物のウェイトで全県平均よりそれが大きいものは上側, 小さいものは下側となる.

3) 水稻 (粳米) 反収

- ▬ 1石4斗以上
- ▬ 1石3斗台
- ▬ 1石2斗台
- 1石以上
- (無) 1石未満

た農業地帯であるといえよう。上道郡は特有農産物のウェイトは全県のそれをややうわまわる程度であるが、その中心は最も代表的な商品作物である実綿であって、第8表の主要農産物の郡別集中度にみるように全県下実綿の14.6%が集中する綿作地となっている。ウェイトの大きい米の反当収量もたかいところであり、このような稲作に加えて綿作を展開している地域である。もうひとつの大庭郡は特有農産物のウェイトがかなり大きいそれは葉煙草であり、全県下葉煙草の19.1%が集中し、隣接する15.3%の真島郡とともに葉煙草地帯となっている。ここは上道郡が県南の備前平野の水田地帯であるのに対し、県北の蒜山山麓であり、両郡は対照的な場所に位置している。

II-1の窪屋郡は米のウェイトが全県をやや下まわる程度であり、Iと同一のグループと考えてもさしつかえない。全県の実綿の11.0%、そして価額は大きくないが蘭の40.2%がここに集中している。水稻反収もたかく、Iの上道郡と同じ性格の地域である。

II-2は美作の2郡のほかはいずれも備中で、備前全体もこの傾向を示す。



特有農産物のウェイトが大きいとともにその他農産物のウェイトも大きい。浅口、下道、後月の3郡は実綿、川上郡は葉煙草、久米南条、久米北条両郡は菜種で、いずれも同時に麦、雑穀のウェイトが大きい。浅口郡は全県下実綿の17.9%が集中する最大の綿作地であり、隣接する窪屋郡等とともに綿作地帯を形成しているが、また麦の最大の生産地でもあり、Ⅱ—2グループの典型をなす。ここに接する下道郡、そして後月郡は実綿と、価額はたいして大きくはないが藍葉の集中（両者あわせて22.9%となる）がみられ、また麦、あるいは麦と雑穀のウェイトが大きい。川上郡には全県下葉煙草の25.2%が集中し、県下第1の葉煙草生産地で、上房郡、賀陽郡にかけての備中の煙草作地帯を形成している。美作の2郡である久米南条、久米北条の両郡は菜種のウェイトが大きく、また前者には全県下菜種の27.7%が集中しているという主要菜種作地となっている。その他農産物は前者は麦、後者は雑穀、特に大豆である。このⅡ—2は備中諸郡が多いが、下道郡をのぞくとほかの諸郡は畑作地帯であり、また水稻生産力も低いところであって、このような条件のもとでの商品作物の展開がみられたのである。

Ⅲ—1は美作の7郡、備前の4郡、備中の2郡である。美作が多いが美作それ自体はⅠの傾向を示し、備前はこのⅢ—1の傾向を示す。美作は後の苫田、勝田の両郡となるところがほとんどで水田卓越の地域であるが、しかし水稻反収はたかくなく、また商品作物の展開もこのように小さいのである。このⅢ—1に属する備前、備中の諸郡もまた水田卓越の地域であってその多くは水稻反収もたかく、またそのウェイトは全県を下まわるとはいえ、実綿、菜種、蘭、藍葉、葉煙草などが一定程度あって、水稻作地域に商品作物の展開がみられるのである。

Ⅲ—2は3郡であるが、和気郡はⅢ—1に近く、その備前諸郡と同様に考えてよいであろう。真島、哲多両郡は、前者には全県下葉煙草の15.3%が集中していて、大庭郡とともに美作の煙草作地帯を形成しているほかに、楮皮もあり、そして哲多郡はこの楮皮の川上郡につぐ産地であるとはいえその

第8表 岡山県主要農産物価額郡別集中度

(明治10年)

	普 通 農 産 物						特 有 農 産 物								合 計
	米	麦	雑穀	内大豆	甘藷	その他 とも合計	実綿	菜種	葉烟草	藍葉	蕎麦	楮皮	製茶	その他 とも合計	
真島郡	2.8	2.4	6.7	9.4	0.27	2.9	0.00	1.1	15.3	2.9	—	6.5	2.0	1.7	2.7
大庭郡	1.5	0.51	2.1	2.7	0.31	1.3	0.52	0.99	19.1	0.62	—	2.7	2.5	1.9	1.4
西北条郡	0.76	0.29	0.48	0.64	0.00	0.65	0.12	0.30	0.01	0.27	—	0.89	0.17	0.26	0.59
西々条郡	2.4	0.84	1.3	1.5	0.04	2.1	0.50	0.54	—	0.31	—	0.43	2.2	0.51	1.8
東南条郡	0.54	0.30	0.28	0.30	—	0.48	0.12	0.15	0.00	—	—	—	—	0.11	0.42
東北条郡	1.4	0.42	0.75	1.1	0.12	1.2	0.13	0.32	0.06	0.13	0.10	3.4	—	0.37	1.1
勝北郡	3.9	1.7	0.97	1.0	0.19	3.3	0.52	0.38	0.27	1.0	—	2.6	0.95	0.69	2.9
吉野郡	1.4	1.0	2.1	3.0	0.21	1.4	1.2	0.17	1.2	3.8	—	3.2	2.7	1.2	1.3
勝南郡	1.8	1.2	1.7	1.9	2.1	1.7	1.4	0.67	0.31	0.84	—	2.8	2.7	1.2	1.6
英田郡	1.5	1.6	2.9	3.6	0.26	1.6	0.53	0.20	0.49	0.57	—	0.87	42.0	1.3	1.5
久米南条郡	1.8	3.9	3.2	2.6	0.12	2.2	0.80	27.7	4.1	0.19	—	0.09	0.62	9.6	3.2
久米北条郡	2.2	2.1	7.4	11.2	0.50	2.4	0.96	8.3	0.71	1.6	—	0.60	0.52	3.3	2.5
美作	22.1	16.3	29.8	39.1	4.1	21.0	6.8	40.9	41.5	12.3	0.10	24.1	57.4	22.2	21.2
御野郡	6.0	1.8	0.46	0.53	0.05	4.9	2.8	4.7	—	0.90	9.4	—	—	3.2	4.7
津高郡	4.4	7.6	4.9	5.0	1.9	4.9	3.3	5.2	3.2	6.00	8.8	1.3	8.1	4.2	4.8
赤坂郡	3.4	3.1	2.8	3.0	0.60	3.2	2.4	1.9	1.5	1.6	—	—	2.9	2.1	3.1
磐梨郡	2.3	1.8	1.2	1.6	0.01	2.1	2.4	1.9	0.02	0.15	—	—	—	1.8	2.1
和気郡	3.5	3.8	2.9	3.5	1.7	3.5	1.9	2.9	0.43	3.4	—	0.15	4.6	2.2	3.3

邑久郡	6.3	6.8	2.4	2.5	5.5	6.2	5.5	8.8	0.03	3.2	—	—	0.21	6.1	6.2
上道郡	13.2	5.7	1.1	1.3	0.04	11.1	14.6	12.6	—	8.6	—	—	—	11.3	11.1
児島郡	5.3	7.9	5.9	6.8	53.6	6.9	8.9	0.04	0.01	1.9	—	—	—	4.9	6.4
備前	44.4	38.6	21.7	24.3	63.4	42.9	41.9	38.0	5.2	25.7	18.1	1.5	15.8	35.8	41.9
都宇郡	5.7	2.2	0.72	0.95	0.65	4.8	2.2	2.8	—	—	38.1	—	—	3.2	4.6
窪屋郡	4.6	3.8	1.3	1.7	0.67	4.2	11.0	2.8	—	0.93	40.2	—	—	7.4	4.6
浅口郡	3.1	9.3	4.7	4.5	0.04	4.1	17.9	1.7	—	4.0	0.00	—	—	9.1	4.8
小田郡	2.7	7.4	5.9	3.3	8.4	3.7	4.0	3.4	0.39	12.1	1.8	—	—	3.6	3.7
後月郡	1.3	3.4	4.1	2.5	12.0	2.1	3.2	1.6	3.9	13.1	1.6	—	0.04	2.9	2.2
下道郡	2.5	3.3	3.1	2.0	4.0	2.7	4.0	2.0	0.23	9.8	—	—	2.2	3.0	2.7
賀陽郡	5.7	4.3	3.4	2.4	1.6	5.4	5.7	5.4	7.0	8.6	—	—	0.82	4.9	5.4
上房郡	1.6	3.0	3.4	2.9	0.26	1.9	1.4	0.04	8.3	5.7	—	0.54	12.1	1.7	1.9
川上郡	1.9	4.3	12.9	5.8	4.4	2.8	1.2	0.89	25.2	5.4	—	45.7	1.5	3.8	3.0
哲多郡	2.0	1.3	3.9	5.1	0.25	1.9	0.01	0.11	0.39	0.11	—	17.4	1.0	0.49	1.7
阿賀郡	2.5	2.8	5.2	5.5	0.19	2.6	0.73	0.48	14.1	2.2	—	10.7	9.1	2.0	2.5
備中	33.5	45.1	48.5	36.7	32.4	36.1	51.3	21.1	53.2	61.9	81.8	74.4	26.7	42.0	36.9
全県	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

註 1) 第6表と同一資料より作成。

2) 単位はパーセント。

ウェイトは大きくなく、ともに雑穀、特に大豆の集中が著しい。水稻の反収も低く、商品生産の展開も小さく、雑穀に大きく依存している地域である。

Ⅳに属するのは美作1郡、備前2郡、備中3郡である。これらのうち児島郡はなおその干拓地が形成途上にあることの特異事情を反映して麦、甘藷が多く栽培され、特に後者は全県下産額の実に53.6%を占めているのであって、このようなことによってⅣに属するものとなっている。小田郡は水田率が最も小さい郡であり米のウェイトは必然的に小さいが、他方実綿、菜種、それに藍葉などの商品作物の栽培があるとはいえそれは大きくなく、麦、雑穀のウェイトのたかいところである。このほかの英田、津高、上房、阿賀の各郡ともこれと同様米と特有農産物の生産は小さく、麦、雑穀に依存している。ここの備中3郡がそうであるが、水稻反収も低く、また積極的に畑作商品作物も導入し得ず、自給性のつよい麦、雑穀生産が行なわれているのである。

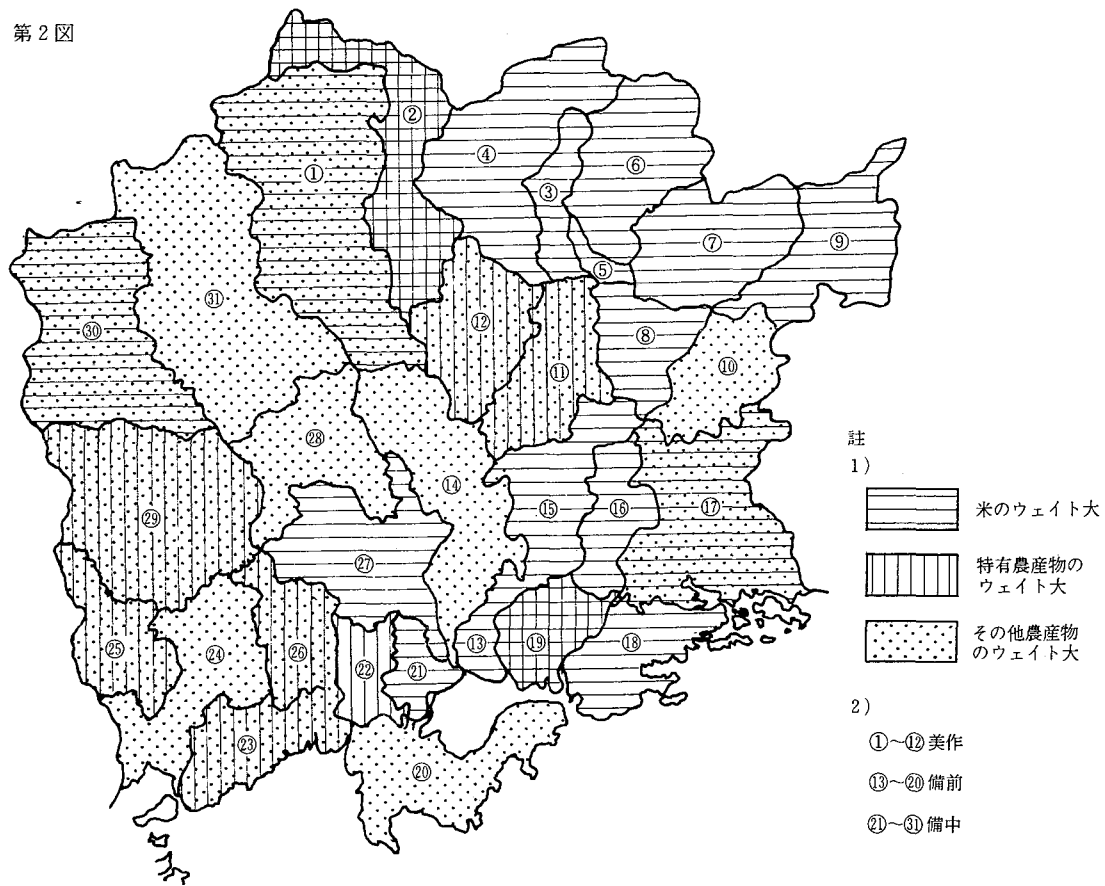
以上各郡のグループ化を行なったが、これこれを基礎とし、これに所在位置関係をも考慮に入れた地域的編成状況を概観したい（第2図）。

第1の地域は、商品作物のウェイトの大きい上道郡と窪屋郡をつつみ込むようにして、東は邑久郡、磐梨郡から西は備中の賀陽郡、窪屋郡にいたる県南の備前から備中にかけての地域である。ここは水田卓越地域で米のウェイトが大きく、かつ水稻生産力も総じてたかい。このような稲作基盤のうえに、窪屋、上道両郡に顕著にみられた棉作があるというように商品作物の展開がみられたのである。麦のウェイトのやや大きい和気郡をもここに含めてよいであろう。

第2の地域はその後の苫田、勝田、英田の諸郡に属する美作東半部の地域である。ここも同じように水稻のウェイトが大きい、しかし生産力は低く、また商品作物の展開がみられない。生産力の低い稲作に依存しているのである。

第3の地域は極端に麦作のウェイトの大きい小田郡をつつみ込む浅口郡、下道郡、川上郡、後月郡にわたる備中西南部の地域である。ここは総じて畑

第2図



地卓越の地域であり、そもそも水稻のウェイトは小さくならざるを得ない。他方、実綿、藍葉、それに川上郡の葉煙草などの商品作物の栽培があるが、麦作地帯であることが前面に出てくるところとなっている。児島郡は特殊な事情にあるこの段階ではこの地域類型に入るであろう。

第4の地域は備前の津高から美作の真島、それに備中の上房、哲多、阿賀の諸郡で、県の西北部に位置する。ここは一部では米のウェイトの大きい郡も含んではいるが総じてそれは小さく、かつ水稻生産力も低い。個々には商品作物がみられるとはいえそれも小さく、麦、雑穀のウェイトが大きい。農業の発展の様相が最もみられない地域である。

第2と第4の地域には含まれる美作の久米南条、久米北条、大庭の3郡が特異な地域となっている。ここは美作における、さらにひろく県北における商品生産のウェイトがきわめて大きい地域をなしている。大庭郡は米のウェイトが大きく、その生産力もたかいうえに、葉煙草を中心とする特有農産物のウェイトが大きく、県北ではきわだった地域となっている。久米南条、久米北条は米のウェイトは小さく、生産力も低いが、菜種のウェイトが大きいことによって大庭郡とともに商品生産の展開した地域となっている。もっともこの菜種の数字が誤りだとすれば、この商品作物のウェイトは大きく低下して、米およびその他農産物のウェイトが増大する。このようにその他農産物のウェイトがいっそう増大すると、この両郡はむしろ第4地域に含まれるようになるかもしれない。このように考えると大庭郡はいっそうきわだった特徴をもつものとなるのである。

以上明治初期の岡山県の産業構成、農業の地域的編成をあきらかにしてきた。このような状況を起点としてその後の日本資本主義の展開にともなう産業編成・地域的編成の編成替が進行するのである。この過程をあきらかにしていくうえでは、特に明治10年代の激動の過程とそれにひきつづく明治20年代の動向の追求が重要な課題となるのである。この点については別稿において検討していきたいが、ここでは以上の地域的編成状況から予想される各地

域の農業の展開の方向と問題点をあげておこう。

この後の動向はどの地域であれ稲作の拡大、生産力の発展の追求が基軸となることはいうまでもないが、この稲作の発展を軸として各種作物の拡大を図っていくであろう。第1の地域は上道郡、都窪郡をのぞいて棉作のウェイトは大きくなく、この棉作をはじめとする商品作物の拡大が図られるであろうが、これら商品作物のおかれている状況はきびしい。この水田地帯における棉作等の商品作物の展開のあとの追跡が課題となるであろう。第2の地域は米のウェイトの大きいところであるが生産力はたかくなく、明治10年以前にはあまりみられない商品生産の積極的な導入が図られるであろう。英田郡の製茶のようなものもみられるが十分のひろがりをもたず、ここでは養蚕がその中心となるであろうが、明治10年代の激動の過程におけるその動向の検討が課題となるであろう。第3の地域は畑地帯で水稻は生産力も概して低く、積極的に商品生産が導入されていたが、この商品作物のその後の動向が重要な検討点となるであろう。旧来の商品作物がすい退をたどらざるを得ない時代状況のもとでは商品生産の展開はむしろ困難であろうが、このようななかでウェイトの大きい麦の加工、麦稈利用等の方向が追求されていくものと思われる。この点の検討もこの地域の問題として重要であると思われる。第4の地域は米作基盤の乏しいところであり、多く吉備高原、中国山地上という自然条件に相應しい作物の導入あるいは拡大が図られていくであろうが、その追跡が課題であろう。なお大庭郡の場合は葉煙草作、久米南条、久米北条両郡の場合は菜種作の動向が重要であることはいうまでもなからう。以上のごとくに各地域によって予想される状況は異なるが、これらの諸点を中心としたその後の動向の検討は別稿において行ないたい。